【別紙様式２】

平成26年度　県立下館工業高等学校自己評価表

No.1

目指す学校像	1　心身ともに健康で，互いを尊重する豊かな人間性を培い，次世代を担っていく人材を育成する学校。 2　工業に関する知識・技術を身に付け，堅実な職業観を持った産業の発展に寄与する人材を育成する学校。 3　生徒の希望する進路の実現を図ることにより，地域から信頼され，進学又は就職が可能な選択肢の広い学校。

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
重点目標の達成状況は５段階評価で３．７であった。 進路面では，進学者８１名（４年生大学４０名）であり，国立大学の合格者を出すことができた。就職では厳しい社会情勢の中，進路ガイダンスや個別面談等により，生徒の希望と適性を考慮した指導の結果，希望進路実現をほぼ果たせ，就職率１００％を誇る。 資格取得においても，第２種電気工事士や２級ボイラー技士では全国でもトップクラスの合格率を誇っている。さらに，難関の第１種電気工事士では６名，１級ボイラー技士では３名の合格者を出すことができた。 今年度は，基礎力の向上を図ると同時に，学校行事等を通してコミュニケーション能力の質を高め，社会性豊かな人間育成に努める。	１　基本的な学力の定着及び個別指導による学力の向上	①　朝のプリント学習や定期的な基礎力診断テストをとおし，高校生として必要な一般常識を身につけさせる。 ②　教科ごとに，生徒一人一人の的確な学力診断を行い，それに応じた授業や実習の工夫・改善に努める。	3.6
	２　資格取得による生徒の様々な能力の伸長と，豊かな個性の育成	①　資格年間計画表を作成し，個々の生徒が様々な資格取得に挑戦できる環境作りをする。 ②　生徒の資格取得の実現を目指し，課外や補講など最大限の援助を心がけ，専門性を高める。	3.9
	３　進路指導システムの構築による生徒の進路希望の実現	①　３年間の進路指導システムを構築し，生徒の多様な進路希望に対応する。 ②　生徒及び保護者との面談をとおし，学校と家庭が連携することで，生徒の進路実現を目指す。	3.8
	４　心の教育の充実	①　高校生らしい生活態度について指導するとともに，職員および保護者が連携してさわやかマナーアップ運動や朝のあいさつ運動を推進し，生徒の基本的生習慣の確立に努める。 ②　道徳教育や読書教育をとおし，自己を見つめるとともに，他人及び社会について深く考え，思いやる心を育成する。	3.6
	５　特別活動の充実と安全教育の徹底	①　部活動や委員会活動など生徒が自主的に活動できる環境を整え，心身ともに長く活動できる機会を多くする。 ②　各種安全教育を徹底し，事故の未然防止に努め，事故発生ゼロを目指す。	3.7

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	国語	基礎学力の向上を図る。	授業また家庭学習において国語力の定着を図るための教材を準備する。	1	3.7	3.7	基礎的な国語力とコミュニケーション能力の育成を図る。読書を通し，幅広い視野と豊かな心を育成する。
			小テストを利用して理解度を把握するとともに，学習の習慣を身につけさせる。	1	3.7		
		読書を通し豊かな人間性を培う。	１年生の授業の始業時に１０分間読書を行うことで，豊かな感受性を養い，考える力を身につけさせる。	1	4.0		
			本が自己の生き方に与える重要性を認識させ，本の紹介や読書感想文に取り組ませる。	1	4.0		
		就職・進学指導の充実を図る。	朝のプリントおよび，漢字検定を実施することで，生徒の学習意欲と進路意識を高める。	2	3.3		
			個々の進路に応じた，一般常識や作文・小論文の指導を徹底する。	1	3.3		
	地歴公民	基礎学力の向上を図る。	わかりやすい授業展開および板書を心がけ，補講等により理解の不十分な生徒への対応を図る。	1	4.0	4.0	現代社会については，基礎学力の向上を目指し，実生活に結びつく知識を身につけさせる。地歴については少ない授業数の中で充実した授業展開を図るための努力をする。
			進路実現に対応した一般常識の定着を図る。	1	3.0		
			ノートを定期的に点検し，小テスト等を実施することにより，学習の理解度などを把握する。	1	4.0		
		学習内容を理解する喜びを実感できるようにする。	視聴覚教材や，新聞・地図・図表などの活用を心がけ，ＩＴ教育を積極的に取り入れる。	1	5.0		
			修学旅行の行き先の地理・歴史・文化を取り上げ，事前指導の一助とする。	1	4.0		
			生徒の実態（興味・関心）に即した授業展開を図る。	1	3.0		

※評価基準　５：大変よくできた　４：よくできた　３：ふつう　２：やや不十分　１：不十分

教科指導	数学	基礎学力の向上に努める。	生徒の力量に沿った教材を精選し，授業での個別指導等を通してきめ細かな指導を行う。	1	4.0	3.6	家庭学習の習慣を少しでもつけさせるための指導に力を入れる。
			レディネステスト，単元別テスト，定期考査等を利用して学習の理解度を把握し，不十分生徒には補習を実施する。	1	3.8		
			進学希望者への課外授業等を通して学力の向上に努める。	1	4.0		
		家庭学習習慣の定着に努める。	問題集を利用して，家庭学習の習慣をつける。	1	3.0		
		わかる授業へと改善を図る。	各種研修会に積極的に参加し，教科会で発表するとともに自己研鑽に努める。	1	3.3		
			効率的な教材の開発を行う。	1	3.5		
	理科	基礎学力の向上を図る。	工業高校で学習する上で最低限必要な物理と化学の知識及び学力の定着に努める。	1	4.5	4.0	プリントなどを有効に使用し，生徒が自ら参加し,取り組むような授業の構築に努めたい。また，家庭学習を行う意識の構築に努めたい。
			プリント学習等を利用して学習の理解度を把握し，不十分な生徒へは補習を実施する。	1	4.0		
		理科の楽しさを実感する授業に努める。	実験を実施することにより理科への興味関心を惹きつける。	1	4.0		
		家庭学習の定着に努める。	課題・プリント・実験レポートを定期的に提出・点検することにより，自ら調べ学習する意識を定着させ，家庭学習に結びつける。	1	3.5		
	英語	基礎学力の向上を図る。	小テスト等を実施し，授業での学習内容の定着を図る。	1	4.7	3.9	パフォーマンステストなどを積極的に実施し，言語活動を重視したよりよい授業を目指したい。
			ノートやプリントを定期的に点検し，学習状況の実態を把握する。	1	5.0		
			課題等を与え，家庭学習の習慣をつける。	1	3.0		
			課外を実施し，進学希望者の実践的学力の向上を図る。	1	3.0		
		学習指導の工夫に努める。	英語の授業は英語で行うことを基本とし，生徒に積極的な言語活動を促す。	1	3.3		
			ALTと協力し、コミュニケーション活動の活発化を図る。	1	4.0		
			各種研修等に参加し，自己研鑽に努める。	1	4.0		
	保健体育	基礎体力および技能の向上を図る。	毎時間の授業の中で体づくり運動を取り入れる。	1	4.0	4.4	体力間格差や技能間格差が年々大きくなっている。ＴＴにより習熟度別に授業を展開していくことが理想であるが，課題も多く，教員間の連携を密に授業を展開していくことが現状である。
			技能の未熟な生徒や到達目標に達していない生徒に対しては，段階に応じて個別指導を実施する。	1	4.5		
		運動の楽しさや喜びを実感できる授業の展開を図る。	ゲームを通して運動量を確保し，種目の特性を理解できる機会を多くする。	1	5.0		
			勝敗を競い合うことの楽しさ，仲間と協力して達成する喜びが実感できる指導に努める。	1	4.0		
		自らの健康について関心をもち活力ある生活を営む態度を育てる。	喫煙・飲酒・薬物乱用が健康に及ぼす影響について，学校生活全体を通して徹底指導を図る。	5	4.3		
			基本的生活習慣を身につけさせるとともに適切な意志決定・行動選択をする力を培う指導努める。	5	4.3		
	家庭	家庭生活に関する基礎的基本的な知識と技術を身につけ，実生活に生かす力を養う。	授業への取り組みや課題等の提出状況を確認し,理解度を把握する。	1	4.0	4.3	生徒の実態に合わせた指導法の工夫。教員間の指導の連携。
			実験・実習を通して基礎的・基本的技術力の向上を図る。	1	4.0		
		学習指導の工夫に努める。	教材や資料の利用を工夫し、生徒の理解を深める授業を行う。	1	4.0		
			実習講師と連携し，実験・実習など安全かつきめ細やかな指導をする。	1	5.0		

※評価基準　５：大変よくできた　４：よくできた　３：ふつう　２：やや不十分　１：不十分

教科指導	美術	美術を愛好する心情を育成する。	絵画を通じデッサン，色彩，構成，材料や用具の生かし方などの技能の修得を図る。	1	3.0	3.5	生徒自身の個性や興味関心を引き出し，のびのびとした創作活動を行えるような課題・教材作りを目指す。
			意図に応じた多様な表現方法の工夫ができるようにする。	1	4.0		
		感性を高め創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。	機能と美しさや楽しさを考えた主題の生成を図る。	1	3.0		
			鑑賞に関して，作者の心情や意図と表現の工夫を理解させる。	1	4.5		
		個性豊かな美術の能力を高める。	デザインを通じ生活を心豊かに想像する主題の生成を図る。	1	3.0		
	音楽	鑑賞力を養う。	主体的・能動的に音楽鑑賞ができるよう事前学習を徹底する。	1	4.0	3.5	興味関心を持って授業に取り組めるよう，教材を吟味し,指導方法の工夫を図る。
		音楽を愛好する心情を育て豊かな情操を養う。	様々なジャンルの音楽を通して創造的な表現力の育成を図る。	1	3.0		
	機械科	将来のスペシャリストの育成を図る。	指導計画に基づいたわかり易い授業の展開を図る。	1	3.8	4.1	更に分かりやすい授業の工夫に努める。資格取得の奨励と指導の工夫を目指す。
			基礎・基本を充実させ先端技術を取り入れた設備の更新・充実を図る。	1	3.0		
		基礎学力の向上を図る。	小テストを実施し，生徒個々の基礎学力の向上を図る。	1	3.8		
			授業の内容が完全に理解できるように，生徒に課題提出や補習等を実施する。	1	4.3		
			標準テスト（機械設計）の平均点は６０点以上を取れるように継続的な学習の定着を図る。	1	4.0		
		資格取得実績の確実な伸長を図る。	資格取得（２級ボイラー技士）の合格数で県内トップを目指す。	2	4.5		
			資格取得（危険物取扱者試験）の合格率で県内トップを目指す。	2	4.5		
			生徒の資格試験の合格率を上げるため，放課後の補習を定期的に行う。	2	4.5		
	電気科	基礎学力の定着を目指す。	授業や実習を充実させるために，教材研究を積極的に行い指導内容の見直しを図る。	1	3.9	3.9	実習内容の見直しと，わかりやすい授業の工夫につとめ，資格取得を奨励し，基礎学力の定着を図る。
			わかりやすい授業を試み，成績不振な生徒に対しては課題や補講で対応する。	1	3.7		
		資格取得の実績を上げる。	教科指導,資格指導を担任と連携し積極的に行う。	2	3.6		
			第二種電気工事士の資格は電気科の基幹資格なので,受験者全員の合格を目指す。	2	4.6		
			進路指導を担任・学年と連携し,計画的に行う。	2	3.5		
	建設工学科	基礎学力の向上を図る。	小テストを実施して理解度を把握し，不十分な生徒へは補習を実施する。	1	3.6	3.5	習慣的学習態度を身につけさせ建設系の専門に対する興味関心を高め，学校生活を充実させる。外部講師を招く機会を増やす。
			演習問題を多く解くことによって問題解法に慣れ，自信と実力をつける。	1	3.8		
			製図や資格試験との関連性を重視した教科内容とし，図面の読み書きができる基礎能力を養う。	1	3.8		
		資格取得実績の向上を図る。	２級施工管理技術者の学科試験合格者を出す。	2	2.7		
			計算技術検定・情報技術検定３級の合格率８０％以上を目指す。	2	3.3		
		競技会に参加する。	ものづくりコンテスト関東大会の出場を目指す。	2	4.4		
			各種コンペ競技に参加する。	2	3.1		
	電子科	基礎・基本の徹底と個別指導による学力の向上を目指す。	基礎理論について，きめ細かに，そしてわかりやすく指導・説明する。	1	3.8	4.0	基礎学習の定着と教材の工夫による興味関心を持たせ，実習につないでいく。
			知識の理解度や計算能力の達成度を十分に把握し，授業展開に注意を払う。	1	4.0		
			専門科目の演習問題を多く利用し，応用力をつけさせる。	1	3.6		
			座学と実習を関連させながら，理論と実際の成り立ちをわかりやすく説明する。	1	4.0		
		資格取得指導の一層の充実を図る。	様々な資格に関する情報を提供する。	2	4.3		
			放課後や長期休業期間等に，筆記試験および実技関連の課外授業で生徒のバックアップに努める。	2	4.3		

※評価基準　５：大変よくできた　４：よくできた　３：ふつう　２：やや不十分　１：不十分

教務	教育活動の公表に努める。	学校要覧，学校案内パンフレット等を作成して，開かれた学校教育活動に努める。	5	4.4	4.0	おおむね目標達成に向けての対応ができたが，教職員研修の機会を確保することが出来なかった。考査時の午後を利用して教職員研修の機会を設け，資質の向上に努めたい。
	授業時間数の確保に努める。	授業時間数を確保するため，年休・出張時の授業の振替を徹底する。	1	4.2		
		学校行事の精選や特別編成時間割の活用で，授業時間数を確保する。	1	4.1		
	資格取得実績の確実な伸長を図る。	各種検定試験の計画実施を通して，資格取得実績の伸長を図る。	2･3	4.0		
	基礎・基本の徹底と学力の向上を目指す。	標準テスト等の企画実施を通して，生徒の基礎・基本となる学力の向上を目指す。	1	3.9		
	研修を通して教員の資質の向上を図る。	人権教育や情報教育等に関する職員研修会を実施し，教員の資質の向上を図る。	4	3.6		
生徒指導	「挨拶」「服装・頭髪」等の基本的なマナーを身につけさせる。	朝の立哨指導，服装指導を通して，挨拶の励行や服装頭髪等の改善に努める。	4	3.6	3.6	基本的生活習慣を確立し，自律した行動ができる生徒の育成。交通安全の意識の高揚。生徒との対話を通して，生徒の問題意識の確認をする。
		職員週番や各学年及び各校務部との連携により，登下校のマナーの向上に取組む体制を構築。	4	3.3		
	社会の一員としてのモラルの高揚に努める。	バイク通学者指導・バイク点検・交通講話等を通して，交通安全の意識を高め事故を未然に防ぐ。	5	3.8		
		盗難の頻発や許し難い器物破損等の行為については，集会(学年・全校)・検査・保護者宛文書，場合によっては警察に協力を依頼する。各校務部・家庭や関係機関との連携をはかる。	4･5	3.8		
	心の教育の充実に努める。	定期的に被害(いじめ)調査などを実施し，小さなサインを見落とさない体制を作る。	4	3.8		
		各学年・教育相談部・保健室等との連携をはかり，生徒個々の密な情報交換に努める。	4･5	3.3		
進路指導	計画的・継続的な指導による進路意識の高揚を図る。	計画的な進路ガイダンスにより，将来に夢や希望が持てる継続的な指導を図る。	3	4.0	4.2	キャリア教育を意識した進路指導の徹底。 生徒個々に応じた適切な進路指導と情報の伝達。 全国難関企業受験対策や公務員試験対策，公立学校，国立大学合格への指導対策。学年と進路の連携に合わせて教科との連携も進め，学力の向上を図る。
		各種適性検査のデータやワークシート等の活用を通して，各自の適性を知り職業観の定着を図る。	3	4.0		
		工場見学・インターンシップ等の実体験を通して，勤労や職業に対する見方・考え方の形成を図る。	3･5	4.5		
	将来のスペシャリストとしての素養の熟成を図る。	教科・学年と連携し，模擬試験等による系統的に学力が身に付く体制づくりをする。	1･3	4.0		
		職業資格の奨励により，スキルアップ・職業意識の高揚を図る。	1･2･3	4.0		
	外部との連携を充実する。	産業界や大学等との有効的なパートナーシップを築く。	5	5.0		
		保護者への計画的・継続的な進路啓発活動に努める。	5	4.5		
	情報提供を充実する。	「進路情報誌」，「進路だより」の発行や求人票のＰＤＦ化により適確な進路情報の提供を行う。	3	5.0		
		閲覧室の有効的な活用を図る。	3	3.0		
特別活動	自主性を育てる生徒会活動の活性化に努める。	文化祭を中心とした学校行事において，生徒会・各委員会活動の自主的活動の活性化を促す。	5	4.0	4.0	行事時に学校全体で取り組む体勢作りの構築。 生徒会活動の活性化。
		生徒会新聞「志工」を行事ごとに発行し，生徒を通じ保護者等に校内の様子を知らせる。	5	3.8		
	学校行事を積極的に公表する。	校外ボランティア活動に積極的に参加することを勧め，地域とのつながりを密にする。	5	4.5		
		生徒が自ら考え行動できる生徒会活動の組織構築を行う。	5	3.8		
厚生	学習活動に適した環境の整備と学校の安全の確保を図る。	日頃の清掃活動及び行事等の前に実施する大掃除を充実したものにし，生徒の環境美化意識を高める。	4	4.0	4.6	生徒の環境美化意識の向上。 教職員対象救急救命講習の参加率アップ。 危機管理体制の構築。
		学校保健安全計画に基づき，諸検査・安全点検・防火訓練等を実施する。	5	4.8		
		奨学金等の事務処理を確実に行う。	5	4.8		
	生徒の健康の維持・増進を図る。	学校保健安全計画に基づき，健康診断や検診等を実施し，結果についてはクラス担任や保護者と連携して対応する。	5	5.0		
		「保健便り」の発行や講演会を通じて，生徒の健康や衛生に対する意識の向上を図る。	5	5.0		
		保健室の円滑な管理・運営に努める。	5	4.8		
		インフルエンザ等の感染症については，学校医等の協力を得てその流行の防止に努める。	5	4.8		
	心身に問題を抱えた生徒への対応を図る。	生徒の保健室の利用状況を把握する。	5	4.5		
		クラス担任，学年，教育相談部など関係部署と情報の交換等を行い連携する。	4	4.0		

※評価基準　５：大変よくできた　４：よくできた　３：ふつう　２：やや不十分　１：不十分

図書	読書推進活動を図る。	適切な廃棄および計画的な新刊図書の入荷を通し，季節感あふれる新鮮な環境づくりを心がける。	5	4.3	4.3	読書活動の推進と共に，国語科との連携により読書の質を高めたい。
		新刊案内・ライブラリィニュースの発行を通して,生徒および職員の読書活動を推進する。	5	4.8		
		カウンター当番・館内整理・広報活動・地区研修会など図書委員活動の活性化を図る。	1	4.7		
	視聴覚委員の育成。	各種講演会・集会・学年行事などに際し,マイクの準備が適切にできるよう視聴覚委員を育成する。	1	3.2		
教育相談	心の教育の充実を図る。	小さなサインを確実に把握するため，情報交換の充実を図る。	4	3.8	3.9	生徒をよく観察し，生徒の理解に努める。
		保健室，指導担当との連携を図る。	4	4.0		
渉外	関係諸機関との連携を図り，家庭教育の支援を推進する。	ＰＴＡ会員に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するため研修，講演会やＰＴＡ新聞の発行等を行う。	5	4.0	4.0	保護者のＰＴＡ活動への参加率を学年，各分掌と連携して向上させる。
		ＰＴＡ会員相互の親睦を深めるとともに，ＰＴＡ行事への参加率の向上を図る。	5			
情報	校内外への情報配信に努める。	校外向けHP(PC版・Mobile版)での内容を充実させ情報伝達を図る。	5	4.3	4.0	校内ＰＣ環境の整備に努める。 関係各所と連携し，最新の情報提供に努める。
		各科・各校務分掌と連携を図り，校内情報閲覧システム（生徒用Date-Net）や校内成績処理システム（ｅ教務）を充実させる。	2･3	3.8		
		生徒指導部と連携し生徒・保護者を対象とした情報モラル講習を行う。	5	4.0		
	ＰＣ環境を整備する。	生徒活動に即したPC環境を整備し，校内PCの利用を推進する。	1･2･5	4.0		
活性化委員会	本校の教育活動を地域や中学校に伝へ活性化を図る。	学校公開を兼ねた公開実習を実施することで，中学生や保護者に本校について理解を深めてもらう。	5	5.0	5.0	公開実習や地域イベントに積極的に参加する。
		県西生涯学習センターの地域行事に参加し、本校の広報活動に寄与する。	5	5.0		
第1学年	コミュニケーション能力を高める。	声に出してきちんと挨拶する。	4	3.8	3.6	挨拶はほとんどの生徒ができている。話の内容の理解力や意思表示が，更に向上するよう継続した指導をしていきたい。 自分の進路を選択するための知識や能力を身に付けさせ，将来の目標を明確にしていきたい。 学校行事等を通して，ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟや協調性を育む指導を継続していきたい。
		人の話をしっかり聴き，内容を理解する。	4	3.5		
		自分の言葉で相手に意思を伝える。	4	3.5		
	進路目標を立てる。	自分の適性を理解し，進路実現に向けた基礎を固める。	4	3.4		
		授業に自ら積極的に参加することで，学力向上を目指す。	4	3.6		
		課外授業等に積極的に参加し，資格取得に向け努力する。	4	3.9		
	規範意識をはぐくむ。	正しい服装，行動，言葉遣いができる力を培う。	3	3.7		
		相手の立場で物事を考えて行動できる力を身につける。	2	3.3		
		時間を厳守し,けじめのある生活をする。	2･4	3.6		

※評価基準　５：大変よくできた　４：よくできた　３：ふつう　２：やや不十分　１：不十分

第2学年	コミュニケーション能力の向上。	声に出してきちんと挨拶ができるようになる。	4	3.8	3.6	文化祭，修学旅行，インターンシプといった対外的な行事を通して，コミュニケーション能力を育む取り組みができた。また，それらを通して，充実した学校生活を送ることができた生徒が多数である。頭髪や服装の乱れも少なく，規範意識と品格を向上させる指導ができている。これまでの取り組みを来年度の進路指導へとつなげ，結実させていきたい。
		人の話をしっかり聴き取ることができるようになる。	4	3.8		
		自分の言葉で相手に意思を伝える。	4	3.3		
		相手の言葉から気持ちを理解できるようになる。	4	3.5		
	希望進路の選択と実現への努力。	授業に自ら積極的に参加させる。	1	3.1		
		課外授業，基礎力診断テスト等に積極的に参加し，基礎力・応用力を身につけさせる。	1	3.1		
		資格・検定試験等に対する意識を持ち，合格に向け努力する。	2	3.8		
	学校生活の充実。	将来的な進路の目標を持ち，進路実現に向け努力する。	3	3.3		
		適性検査，進路ガイダンス等を通して，自分の適性を把握する。	3	3.2		
		工場見学，インターンシップ等を通して進路を決定する。	3	3.7		
		部活動を通じて気力，体力を養い，将来の進路実現に向け努力する。	5	4.0		
	規範意識と品格の向上。	場に応じて自ら服装を正すことができるようになる。	4	3.8		
		人に感謝される適切な行動をとることができるようになる。	4	3.6		
		相手に良い印象を与える言葉遣いができるようになる。	4	3.7		
第3学年	希望進路の実現。	生徒や保護者と連絡・面談を密にし、個々の進路希望を把握し実現につとめる。	3	3.9	3.8	先生方のご協力により，生徒の進路実現に向けて取り組むことができました。
		進路指導部と連携し，進路先の情報を随時公開する。	3	4.1		
		日々の授業にしっかりと取り組ませ，進路実現のための学力を身につけさせると同時に，資格取得にも積極的に取り組ませる。	4	3.9		
		進路に対応する模擬面接を繰り返し実施し，面接のスキルを身につけさせる。	4	4.6		
	マナーアップとコミュニケーション能力の向上。	欠席・遅刻・早退を極力なくすよう指導する。	4	3.9		
		日頃から正しい服装，元気な挨拶ができるようにする。	1	3.3		
		相手の立場や状況を考え，居心地のよいＨＲ・学校つくりの気配りを促す。	1	3.6		
	責任ある行動の推進。	最高学年としての自覚と，学校全体を牽引する意識を持たせる。	1･2･3	3.1		
		学校行事への取り組みを重視し，積極的参加を促す。	4	4.1		

※評価基準　５：大変よくできた　４：よくできた　３：ふつう　２：やや不十分　１：不十分